

氏名	岡野 信明
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3865号
学位授与の日付	平成15年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Clinicopathological features of acute-onset autoimmune hepatitis (急性発症型自己免疫性肝炎の臨床的病理組織学的特徴)
論文審査委員	教授 吉野 正 教授 小出 典男 教授 筒井 公子

学位論文内容の要旨

自己免疫性肝炎(AIH)には慢性に経過する定型例以外に、急性発症型が存在する。急性発症型 AIH9 例の臨床的病理学的特徴を定型的 AIH29 例と比較した。急性発症型は、血清 ALT が有意に高く、血清 IgG と AIH score は有意に低かった。急性発症型の組織像は、定型例より線維化の軽微な早期の症例が有意に多く認められた一方で、線維化の進んだ症例も認めた。1 症例では Submassive hepatic necrosis を示した。残りの 8 例で Interface hepatitis を認め、中心静脈領域の壊死は 8 例中 7 例に認めた。浸潤細胞は interface hepatitis 及び中心静脈領域で CD8 陽性 T 細胞が主体であり、CD79 α 陽性 B 細胞も interface hepatitis 部主体に認めた。以上より、急性発症型 AIH には、急性発症例と慢性的 AIH の急性増悪例の両方が含まれること、中心静脈領域の壊死が組織学的特徴となる可能性が考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は急性発症自己免疫性肝炎を検索したものである。

急性発症例は、線維化の程度がclassical typeに比べて少ない傾向が明らかにされた。

また、対象症例には、自己免疫性肝炎が急性に発症した症例と慢性的な自己免疫性肝炎が急性増悪した症例が含まれること、中心静脈領域の壊死が組織学的特徴となる可能性も指摘された。

実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、このような症例の位置付けをする点で、重要な知見を得たものとして価値のある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。